

特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会

2024 年度(令和 6 年度)

事業計画

(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

2024 年度の事業方針

「新型インフルエンザ等感染症」が感染症法の「5 類感染症」に位置づけられ制限が撤廃されたことを受け、経済活動が活発化する中、インフレが加速し、人手不足を背景に 2024 年度の賃金のベースアップは 33 年ぶりの高水準となり、このベースアップの動きは全業種に及んでいるところです。特に、中小企業及び各種団体等における人手不足の影響は著しいものがあります。

2024 年度は、このような労働市場のひっ迫感の影響を受け、本協議会の人材補充も難しい状況下にあります。当協議会の地盤強化のための人材の補充及び育成は大変重要な課題となります。インターンシップ・ボランティア等の人材を柔軟に活用し、事務効率を図りながら、当協議会の業務に支障をきたさないよう工夫して進めてまいり所存です。

当協議会の本来の業務として、昨年より引き続き、会員及び関係先への多彩な情報の受け皿「プラットフォーム」としての役割を担うべく、様々なアクター及びユーザーとのより一層の交流を深め、有用な情報を会員間で共有できる受発信システムの充実を通じて、会員との連携強化を推進してまいります。

本協議会が事務局機能を担う「ワン・ワールド・フェスティバル(以下「OWF」という。)」は、従来にも増して国際交流・協力を密にすることが求められています。来年に開催が迫った大阪・関西万博との連携強化の一環として、関西領事団との連携により、万博に出展する各国の見所などを紹介するブースの設置及びシンポジウム等を通じて国際交流・協力を深めることも重要と考えています。会場となる「梅田スカイビル」は、インバウンドに人気の観光地として多くの外国からの観光客が訪れるため、観光客の方々にも OWF の会場でイベントを楽しんでいただくような企画も考えているところです。また、SDGs に興味を持つ中学生及び高校生のために理解が深まるプログラムの準備、会場でのプレゼンテーション等大学生及び若者が参加できるプログラムの策定も重要となります。次世代を担う人材の育成は、社会的なインパクトがあり、社会貢献度の高いイベントの醸成につながるため、最優先課題として対応することとしています。

外国にルーツのあるこどもたちの支援事業「こどもプラザ」は、今後も小学生及び中学生の受け入れを継続したいと考えています。中学生の受入で、高校進学等の学校の情報及び入試の情報等が特に重要となり、中学生に関する新たな情報システムの構築が急務となっています。また、小学生については日本語のサポートを必要としているこどもたちが急増している背景もあり、大阪市教育委員会事務局、近隣区(生野、平野、東住吉区等)の小学校の校長会との連携を強化し、こどもたちの受入がスムーズに行われる環境づくりを行ってまいります。

当協議会の財政の立て直しは、喫緊の課題となっています。このため、グッドガバナンス認証を有効に活用し、休眠口座助成金の申請を考えています。特に「こどもプラザ」の国際的な社会問題を解決するため、休眠口座助成金を有効に活用することで、分配団体としての役割を担うべく準備を進めているところでもあります。

事業別計画概要

1. NGO/NPO間の連携促進事業(会員向け事業)

中間支援団体として、本来の役割を全うすべく、HP 及び SNS を有効に活用しながらさらなる情報発信の強化に取り組んで参ります。特に本協議会が発行するメールマガジンの内容の充実と配信回数の増加について前向きに取り組んでまいります。また、会員との連携強化により、積極的な情報提供をお願いし、会員相互の情報及びノウハウの共有を可能にするための情報プラットフォームの構築を、本年度も継続して取り組んでまいります。さらに、行政、学校、企業等の様々なセクターとのネットワークを築くことで、プラットフォームとしての充実をはかり、中間支援団体の役割も担ってまいります。

(1)会員サービスの充実

- ①企業等からの寄付・寄贈などの申出に会員の紹介及び仲介
- ②助成金や賞などへの応募推奨と推薦
- ③会員名簿の発行
- ④セミナー・講演会の開催

(2)会員への情報提供と会員活動への広報協力

- ①会員専用メールリスト・メールマガジン、HP・SNS等を使用した積極的な情報発信
- ②国際交流・国際協力活動に係るシンポジウム等を後援、活動の支援
- ③自主イベント時に会員情報の配布協力、Facebook 等 SNS を使用した情報配信の協力

(3)会員と企業や団体の連携による事業

- ①会員からの運営や企画、事業の相談対応や連携の調整協力
- ②会員との共同セミナー・講演会・イベントの開催
- ③会員の自主活動事業の協働支援
- ④企業との SDGs の目標達成に向けた共同イベントの開催
- ⑤企業と会員及び NPO 等とのセッション及び連携による SDGs の目標達成に向けた活動
- ⑥企業と会員及び NPO 等との今後の協働の在り方についての調査及び研究

2. NGO/NPOと多分野の団体、他機関との連携促進事業

(1)ワン・ワールド・フェスティバル

本年度は、第32回の開催を迎え、2025 年大阪・関西万博の開催も控えているため、万博事務局が主宰する共創チャレンジに登録されているイベントとして、より一層協働して盛り上げたいと考えています。また、関西領事団との連携を強化し、万博に出展する国々を紹介するブースの設置、総領事等が見所などを紹介するセミナー等を通じて機運醸成を図りたく存じます。

また、このイベントの中心となる NGO/NPO が出展し SDGs の活動を紹介しているプログラムを、世界的な社会問題を理解し解決の糸口を探る「見て、聞いて、理解する」ことができる動機づけの「場」としての役割を果たすことも重要と考えています。イベントに参加された人々が、学生も含めて「学びの場」として活用できるように対応したいと考えているところです。

このイベントは、実行委員会方式で実施するため、実行委員会に参画される団体との連携及びコミュニケーションを取りながら、協働して準備を進めてまいります。また、下部組織となる運営委員会のメンバーとの連携を強化し、企画運営の充実及び安全安心を優先した運営を心掛けたいと考えているところです。各種団体、企業との関係の強化については、協働プログラムへの参画及び協賛をお願い

できる関係構築が急務となります。今後ともより一層の連携強化を図ってまいります。

(2)こどもプラザ

こどもプラザ事業は、外国にルーツを持つこどもたち、とくに Newcomer のこどもに対する日本語で学ぶ学習の支援と、地域コミュニティや学校に馴染めないこどもに対する居場所を確保する「こどもプラザ」の事業を通じて、日本語が話せず学校授業についていけない、仲間外れにされる、いじめられる等の困難に直面しているこどもたちを支援するものです。また、保護者(特に母親)が日本語を話せない、学校の通知等が理解できない等の問題が発生しているため、こどもプラザでは、こどもたちだけではなく、保護者への日本語習得の支援も同時に行っています。現在、中学生のこどもも受け入れを開始していますので、高校進学等の情報収集及び学校との連携強化により、こどもたちの進学についてもサポートするようにしています。今後は、グッドガバナンス認証及びこどもプラザのノウハウを活かした休眠口座座助成金のアプローチ、また休眠口座助成金を利用した分配団体としての挑戦を通じて、他の事業者との連携を強化しこどもの支援を、大阪市内で水平展開できるように準備を進めてまいります。また、地域社会と連携を強化し、在留外国人の日本ででの生活を支援すること、やさしい日本語を話そう!の推進に参加し、多文化共生のプラットフォームの基盤を構築すること等で、地域の多文化共生の機運を高め、地域の活性化につなげることも重要な役割と考えています。

3. 国際交流・国際協力・市民活動に関する情報収集と提供事業

NGO/NPOに関する情報の収集・提供事業

目的 国際交流・国際協力に関する多様な情報収集と提供を行い、市民の意識啓発と活動への参加意識を高める

内容

- ①政府機関、国際機関等の情報
- ②関西を中心に全国の国際交流・国際協力団体、NGO/NPOの情報収集と提供
- ③NGO/NPOに関する法制度の動きやマネジメントに関する情報収集と提供
- ④海外のNGO/NPOに関する情報収集と提供
- ⑤ポータルサイトへの情報を頻繁に提供

※当協議会の HP 上で、上記のような情報をジャンル分けし、タイムリーに発信すること、PICK UP 情報として、イベントの情報を詳しく紹介するコーナーを設けることで、効率的な情報発信を行います。また、前年度より引き続き各団体からの掲載の依頼なども新着情報と併せてメールマガジンに掲載し、配信を行ってまいります。

4. 開発教育・市民意識啓発と活動への参加促進事業

国際交流・国際協力活動、NGO/NPO の活動と役割について理解を促進する目的で、

- ①国際理解(世界で起こっている社会問題等)の教育の促進
※ワン・ワールド・フェスティバルの会場で開催される SDGs の活動を「見て、聞いて、理解する」ことができるプログラムを策定し、大阪府、兵庫県等の教育委員会及び学校との連携により、若者(中学生の以上の学生も含む)の学ぶ「場」としての役割を担い、広く PR することも重要と考えています。
- ②SDGs の市民が参加できるシンポジウムの開催
- ③その他国際交流・国際協力活動に繋がるイベントの自主開催及び他の団体が開催するイベントへの後援及び協力により市民意識啓発を行います。

- ④将来の担い手づくりの一環として、留学生のインターンシップを受け入れ、国際交流・国際協力を繋がる人材育成を実施します。
- ⑤外国にルーツのある学生の就職支援事業(継続調査)
 - ※ダイバシティを推進する企業との連携により、留学生の日本企業への受入及び NGO /NPO と連携した地域社会への受入等、地域社会の活性化及び多文化共生社会の担い手づくりに尽力する事業。
 - ※この事業はまだ調査の段階であるが、引き続き継続課題として調査等続けることにしています。今後理事会の決裁を得て事業化するかどうかは検討する予定にしています。

以上の事業を遂行する。

5. NGO/NPOの基盤強化事業

NGO/NPO 基盤支援事業

- ①NGO/NPO の基盤強化のために法律や税務等のエキスパートと連携し、NGO/NPO 等の団体がスムーズにサービスを受けることができるシステムを構築しています。
 - ※会員等団体から申し出があれば、協議会から各エキスパート関係者に予約を打診し、その後会員等団体の相談者が直接エキスパートに相談するシステムにて運用しています。

6. 調査研究・提言事業

財源確保・人材の育成による NPO の力量形成を図る目的で遂行する事業

- ①会員及び他の NPO 等の現状調査
 - 国際交流・協力の連合体／中間支援組織としての経験や情報、及び NPO 法人としての視点を活かすとともに当該関係者の実情や声を施策に反映できるように努め、委員会等で得られた情報を事業に活用することで、その貴重な情報を関係者にフィードバックすることを、今後も継続し務めてまいります。
- ②外国にルーツのあるこどもたちの現状報告
 - 外国にルーツのあるこどもたちの現状について、大阪市教育委員会事務局、近隣区(生野、平野、東住吉等)の小学校の校長会へ報告することで、今後のこどもたちの指導に活用していただくように対応しています。
- ③一日インフォメーションの開催
 - 「外国人の住みやすい大阪」を考える関係機関等連絡会議(事務局＝大阪国際交流センター)において、外国人向けの相談会「1 日インフォメーションサービス」を本年度も 2 回実施する予定にしています。
- ④関西ボランティアネットワーク会議(KIV-NET)への参加
 - 当協議会がメンバーとして他の参加団体とボランティアについての情報を共有しています。今後は、2025 年大阪・関西万博の開催に向けた、会場でのボランティアの活動について協議を続ける予定になっています。今後も積極的に会議に参加し、今後のボランティアの役割及び動向について情報を収集する予定にしています。